

基本構想



■「市川市総合計画 I&Iプラン21」概念図

	平成13～22年度	平成23～32年度	平成33～37年度
基本構想	計画期間25年		
基本計画	第一次	第二次 計画期間10年	
実施計画	第一次～第三次	第四次	

第二次基本計画



いちかわ いろどり アプローチ

「保健・医療」「高齢者福祉」など、45の施策分野において10の視点を意識したいちかわらしい施策展開を目指します。

10の視点

- ① 環境の保全・創造の視点
- ② 安全・安心の向上の視点
- ③ ユニバーサルデザインの推進の視点
- ④ 健康の増進の視点
- ⑤ 文化の振興の視点
- ⑥ 子育ての支援の視点
- ⑦ 教育の振興の視点
- ⑧ 協働の推進の視点
- ⑨ 地域経済の活性化の視点
- ⑩ ICTの利活用の視点

前計画の評価と社会情勢の見通し踏まえ策定

今後10年のまちづくりの目標
「第二次基本計画」スタート

今年4月から、今後10年間のまちづくりの目標を定めた「第二次基本計画」がスタートしました。「市川市総合計画 I&Iプラン21」の基本構想に掲げられた将来都市像を実現するため、平成22年度まで取り組んできた「第一次基本計画」に続く計画です。ここでは、市の総合計画のあらましをお知らせします。
 (企画・広域行政課)

「I&Iプラン21」
基本構想・基本計画・実施計画の3層構造

市川市の長期的かつ総合的な市政運営を定めた「市川市総合計画 I&Iプラン21」は、目指すべき将来都市像や基本目標を定めた「基本構想」と、それを具現化するための基本的な施策を定める「基本計画」、さらに具体的な事業を定める「実施計画」

の3層構造で構成しています。
 総合計画は、平成13年度に期間10年の第二次基本計画とともにスタートしました。これに基づき、市は「文化都市」「健康都市」「先進都市」など、特色ある取り組みを進めてきました。
 一方、市川市の総人口は、平成27年の約47万4千人をピークに、以降は緩やかな人口減少に転じると見込まれます。また、今後も少子高齢化が進行し、平成32年には、65歳以上の老年人口の割合は平成17年の14.1%から24.6%に増加すると推計されるなど、自治体を取り巻く環境は大きく変化しています。「第二次基本計画」は、「第一次基本計画」の評価に加え、今後の社会情勢の見通しなども踏まえて策定しました。